

神石高原町の公共交通に関するアンケート調査結果

目次

I	調査概要.....	1
II	集計結果のまとめ（要点）	2
III	単純集計結果.....	4
	1. 自身のことについて.....	4
	2. 通勤・通学、普段の食料品・日用品の買い物、通院の状況.....	6
	3. 町内の路線バス（中国バス・町営バス）の利用状況と満足度.....	12
	4. 町内を運行するタクシーの利用について.....	16
	5. ふれあいタクシー事業について.....	17
	6. ふれあいタクシー事業の見直しについて.....	20
	7. 町外医療機関通院者支援事業について.....	23
	8. 今後の神石高原町の公共交通について.....	25
IV	クロス集計結果.....	27
	1. 主な設問の年代によるクロス集計結果.....	27
	2. ふれあいタクシー事業の利用経験・利用対象者要件への該当／非該当・年代によるクロス集計結果	29

調査概要

(1) 調査の目的

ふれあいタクシー事業をはじめとする町内の公共交通に対する皆さまの意見を聞き、ふれあいタクシー事業の見直しや持続的な地域公共交通体系のあり方を検討するため。

(2) 対象

町内の全世帯（3,269 世帯）

調査票を一世帯あたり 1 通配布し、世帯員のうち、町内の公共交通（バス・タクシー）を普段から利用している人が回答

（普段から利用している人がいない場合は、通勤・通学をしている人、高齢者、障害のある人、公共交通を使う機会がありそうな人が回答）

(3) 調査時期

令和 5 年 11 月下旬～12 月 15 日回答期限

(4) 調査方法

郵送により調査票を配布・回収

(5) 調査項目

- 個人属性（性別、年代、居住地、職業等、同居家族、運転免許保有状況、送迎を頼める人の有無、運転の継続意向）
- 普段の生活（通勤・通学、食料品や日用品の買い物、通院）の頻度・目的地・利用交通手段
- 町内の路線バスの利用頻度・区間・満足度・サービス改善が必要な事項
- 町内のタクシーの利用頻度・利用目的
- ふれあいタクシー事業の認知度・利用経験・コロナ禍前後の利用回数の変化・満足度・資格要件が緩和された場合の利用意向
- ふれあいタクシー事業の見直しの必要性・見直し内容
- 町外医療機関通院者支援事業の見直しの必要性・見直し内容
- 今後の町内の公共交通のあり方、維持するための方法
- 町内の公共交通に対する意見（自由記述）

(6) 配布・回収状況

配布数：3,269 票

回収数：1,290 票

回収率：39.5%

※令和 6 年 1 月 15 日時点

II 集計結果のまとめ（要点）

集計結果（速報）の要点を以下に示す。

設問		集計・分析結果
回答者の属性	性別	男性が半数強 人口性比に比べて、男性の割合が高い
	年齢	10歳代は0.9%で、高校生の回答はごくわずか 65歳以上が8割強 公共交通を必要としている人に回答してもらっているため、実際の年齢別人口に比べて高齢者の割合が高い
	自動車の運転	日常的に運転している人は75.8%
	送迎を頼める人の有無	送迎を頼める人がいる人は69.9%
	10年後も運転を続けたいか	65～74歳の73.4%が運転継続の意向 高齢者人口が減少する中、運転免許を持ち続ける高齢者の割合が高まり、免許返納者が減少する可能性
	運転をやめることが難しい理由	移動手段がなくなるからが83.4%、支援制度が不十分と回答した人は29.3%
通勤・通学	頻度	週4～5日が最多で51.7%
	目的地の所在地	町内が72.8%
	利用交通手段	自分で車を運転する人が91.9% 路線バス・町営バス・タクシーは1～2%台
普段の食料品・日用品の買い物	頻度	週1日が最多で54.0%
	最もよく行く店舗	町内は夢屋、町外は福山市の店舗が多い
	利用交通手段	自分で車を運転する人が84.6% タクシー4.4%、路線バス2.4%、町営バス1%未満
通院	頻度	日常的に通院をしている人が71.4% 頻度は年数回が83.6%
	最もよく行く医療機関	町内は神石高原町立病院、町外は福山市の医療機関が多い
	利用交通手段	自分で車を運転する人が68.0% 18.2%がタクシーを利用、路線バス4.0%、町営バス0.5%
町内の路線バスについて	過去1年間の町内路線バスの利用頻度	利用しなかった人が89.7%
	町内路線バスの満足度	比較的高い項目…定時性（時刻通りの運行）、バス停までの距離、運転手の接遇・対応、バスの乗り心地・社内環境 低い項目…便数、バス停までの距離、待合環境など
町内のタクシーについて	利用頻度	利用しない人が65.7% 利用する人の利用頻度は年齢が高くなるにつれて高まるものの、最も高い85歳以上でも、年に数回が85.4%

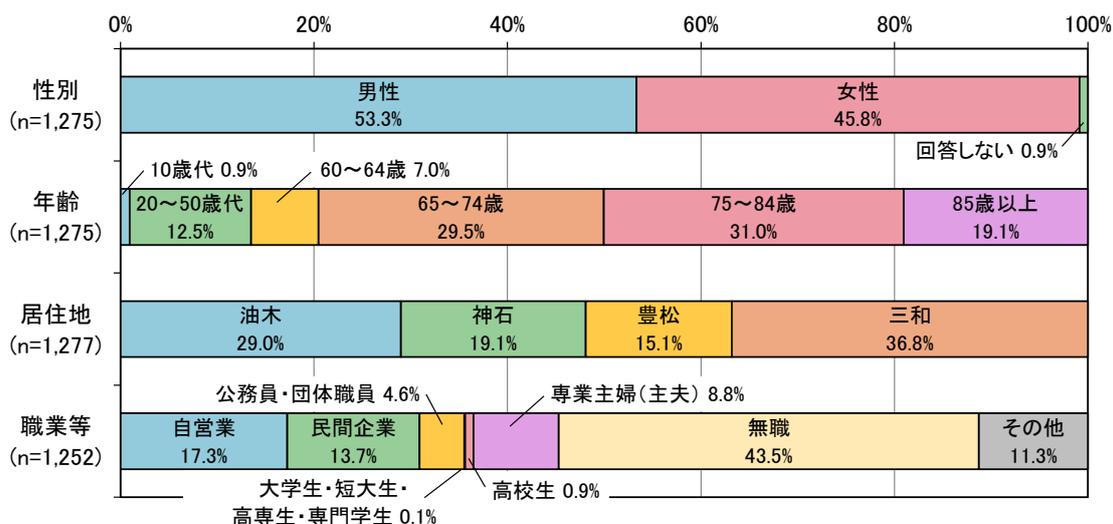
設問		集計・分析結果
	利用する場面	通院が <u>58.8%</u> で最多で、以下、飲み会・バスが運行していない場所へ行くとき各 24.3%、天候が悪いとき 19.8%
ふれあいタクシー事業について	利用経験	利用したことが無い人は、75～84 歳の <u>56.5%</u> 、85 歳以上の <u>28.2%</u>
	利用回数のコロナ禍前後での変化	多くなった人が <u>29.0%</u> 、変わらない人が <u>44.0%</u>
	利用回数が減った理由	送迎してもらうことが増えた人が <u>45.1%</u> 、以下、片道の最大運賃が引き上げられたから <u>23.1%</u> 、コロナ禍と関係なく外出回数が減ったから <u>19.8%</u> など
	満足度	利用経験のある人は、利用したことが無い人に比べて満足度が高い 利用経験がなく利用対象者の要件に該当する人が不満に感じている項目は、利用できる範囲（町内限定であること）、片道の最大運賃など
	資格要件が緩和された場合の利用意向	年齢が高いほど利用意向が高く、 <u>65～74 歳では 72.6%</u> が利用してみようと思うと回答
	見直しの必要性	見直しが必要であると思う人は <u>43.3%</u> 利用対象者の要件に該当しない人の <u>47.1%</u> が、見直しが必要であると回答
	適切だと思う料金	<u>500 円台が 38.7%</u> 、 <u>600 円台が 28.2%</u>
	適切だと思う月間利用回数	<u>20～29 回が 52.4%</u> で最多
	どんな目的の場合、料金を引き下げべきか	通院が <u>95.2%</u> 、買い物が <u>56.0%</u>
町外医療機関通院者支援事業について	見直しの必要性	見直しが必要であると思う人は <u>36.9%</u>
今後の神石高原町の公共交通について	自身の考えに最も近いもの	改善を加えながら現状の公共交通サービスを維持すべきが <u>69.2%</u> で最多 今より充実させるべきだと思う人は <u>21.4%</u>
	公共交通を維持するための方法について支持するか	ふるさと寄付やクラウドファンディングで寄付金を募集する方法や、公費（税金）で補助金を出す方法を支持する人が多い 利用者に負担を求めるときと考える人は <u>23.6%</u> サービスを縮小すべきと考える人は <u>13.5%</u>

III 単純集計結果

1. 自身のことについて

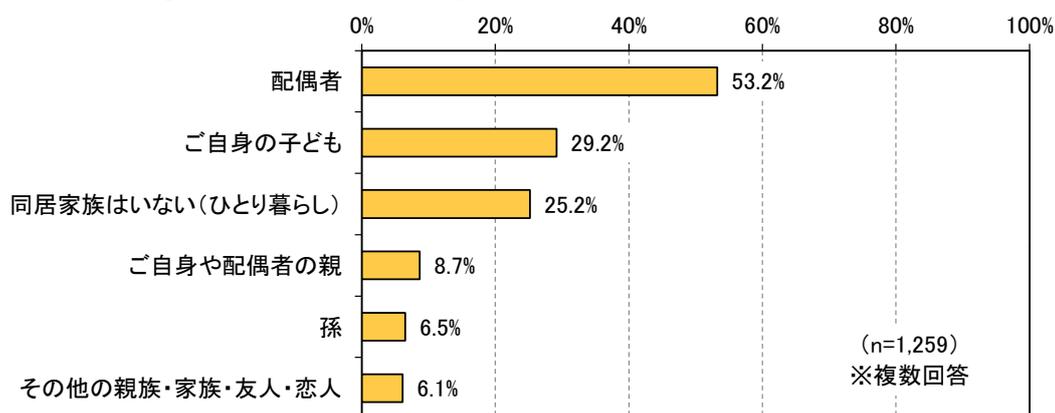
(1) 性別・年齢・居住地・職業

- 性別は男性が53.5%、女性が45.8%で、男性が半数を超えている。
- 年齢は「75～84歳」が31.0%で最も多く、以下「65～74歳」(29.5%)、「85歳以上」(19.1%)となっている。
- 居住地は「三和」が36.8%で最も多く、以下「油木」(29.0%)、「神石」(19.1%)、「豊松」(15.1%)となっている。
- 職業は「無職」が最も多く、半数近くを占めている。



(2) 同居家族

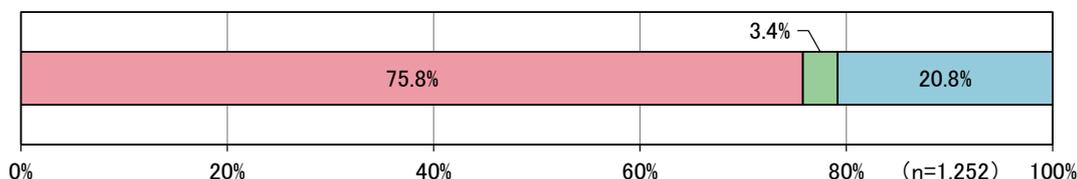
- 「配偶者」と回答した人が53.2%で最も多く、以下「ご自身の子ども」(29.2%)、「同居家族はいない(ひとり暮らし)」(25.2%)となっている。



(3) 日常的に自動車の運転をしているか

- 「運転している」と回答した人が75.8%となっている。

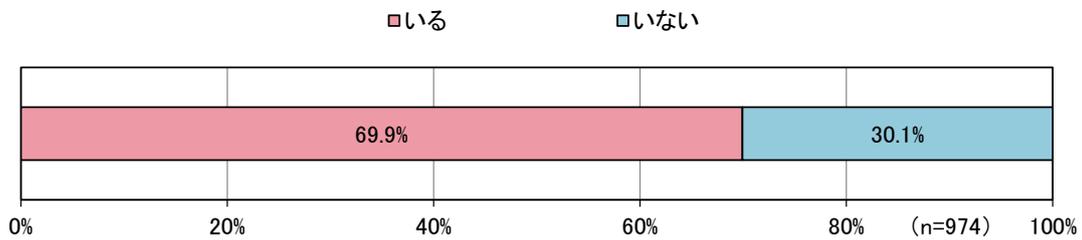
■ 運転している ■ 免許はあるがほとんど運転しない ■ 運転しない(免許がない)



(4) (3) で「運転している」「免許はあるがほとんど運転しない」と回答した人

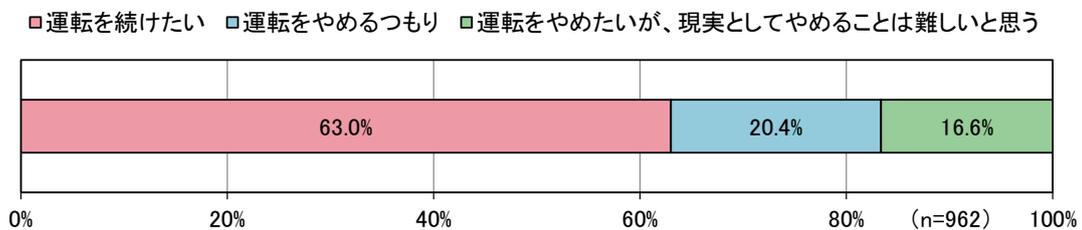
① 普段、家族や身近な人などに送迎を頼める人がいるか

- 「いる」と回答した人が 69.9%となっている。



② 10年後も運転を続けたいと思うか

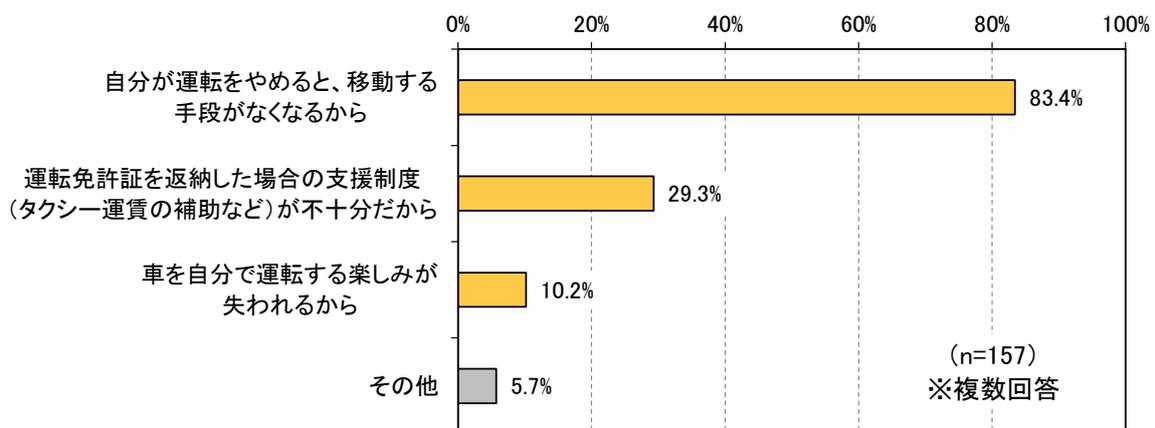
- 「運転を続けたい」と回答した人が 63.0%となっている。



③ ②で「運転をやめたいが、現実としてやめることは難しいと思う」と回答した人のみ

ア. 運転をやめたいにもかかわらず、それが難しい理由

- 「自分が運転をやめると、移動する手段がなくなるから」と回答した人が 83.4%で最も多く、次いで「運転免許証を返納した場合の支援制度（タクシー運賃の補助など）が不十分だから」（29.3%）となっている。

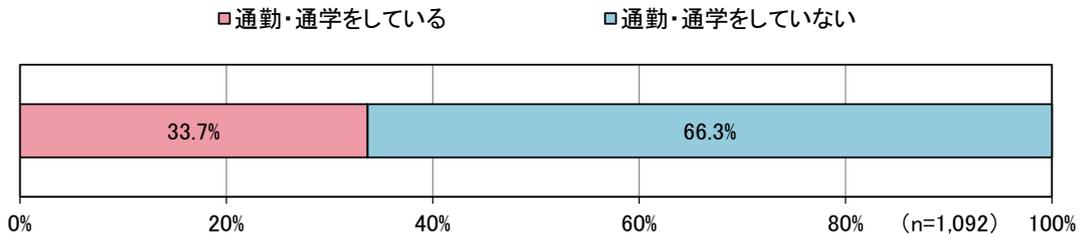


※その他内訳…買い物先まで遠い、自由に移動したい (各2件) ゴミ出しに必要、仕事に必要、乗り換えが大変、買物や病院へ行くのに困る、無回答 (各1件)

2. 通勤・通学、普段の食料品・日用品の買い物、通院の状況

(1) 通勤・通学をしているか

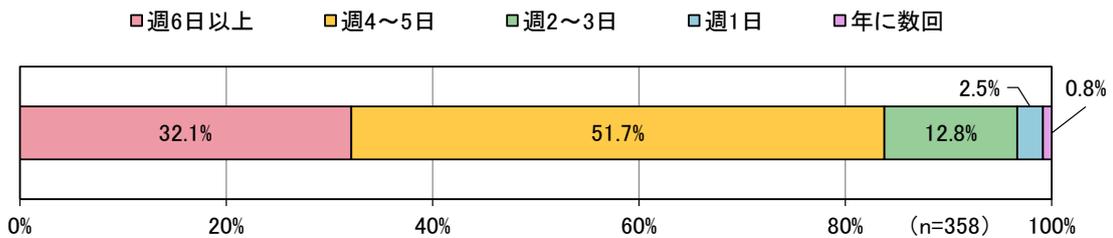
- 「通勤・通学をしていない」と回答した人が 66.3%となっている。



(2) (1) で「通勤・通学をしている」と回答した人

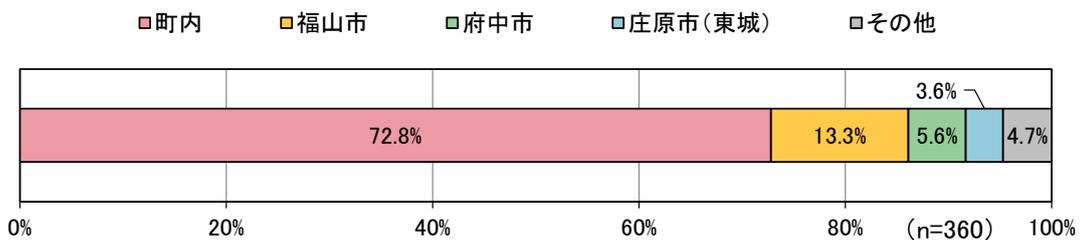
① 通勤・通学の頻度

- 「週 4～5 日」と回答した人が 51.7%で最も多く、以下「週 6 以上」(32.1%)、「週 2～3 日」(12.8%)となっている。



② 通勤・通学先の所在地

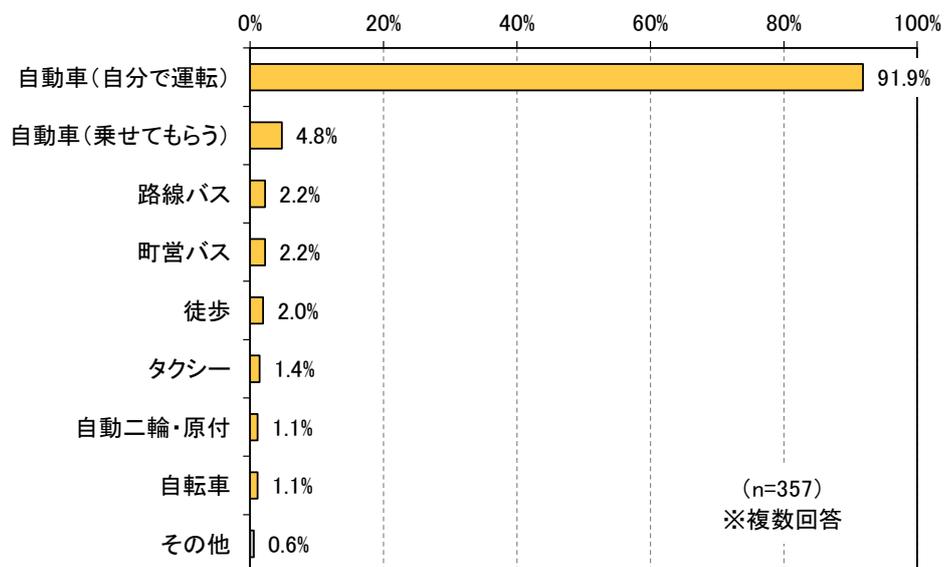
- 「町内」と回答した人が 72.8%で最も多く、以下「福山市」(13.3%)、「府中市」(5.6%)となっている。



※その他内訳…様々な個所 (現場による等) (4 件) 町内と福山市 (3 件) 世羅町、福山市と府中市 (各 2 件) 三次市、三次市甲奴町、庄原市総領町、町内と福山市・庄原市 (東城)、尾道市、無回答 (各 1 件)

③ 通勤・通学時の利用交通手段

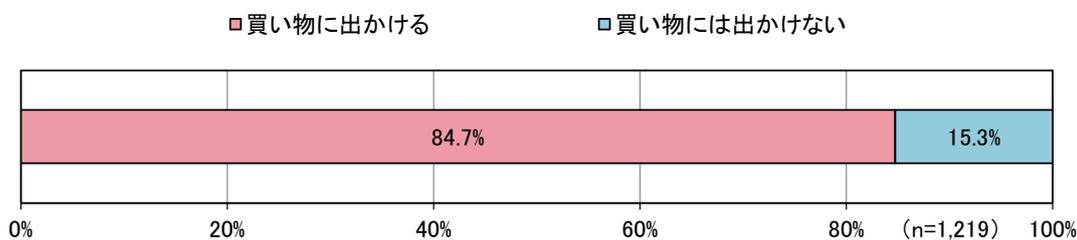
- 「自動車（自分で運転）」と回答した人が91.9%と抜きんで多く、路線バスや町営バスなどの公共交通を利用している人は数%となっている。



※その他内訳…JR、無回答（各1件）

(3) 日常的に食料品や日用品の買い物に出かけるか

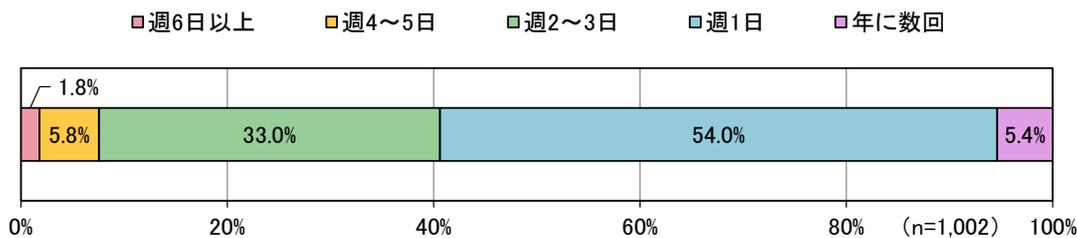
- 「買い物に出かける」と回答した人が84.7%となっている。



(4) (3)で「買い物に出かける」と回答した人

① 買い物に行く頻度

- 「週1日」と回答した人が54.0%で最も多く、次いで「週2~3日」(33.0%)となっている。



② 最もよく行く店舗

ア. 町内（上位 10 件）

- 「夢屋」と回答した人が 21.3%で最も多く、次いで「豊松ストアー」（19.8%）、「道の駅さんわ 182 ステーション」（15.5%）となっている。

最もよく行く店舗名（町内）	%	件数
夢屋	21.3%	103
豊松ストアー	19.8%	96
道の駅さんわ 182 ステーション	15.5%	75
まついストアー	7.2%	35
やまびこローソン 神石高原町店	5.6%	27
J.K.ミートショップ SHIMOHARA	5.4%	26
新屋食料品店	3.3%	16
横山百貨店	2.9%	14
小西食品店	2.9%	14
入江ミート	2.5%	12
福川ストアー	1.7%	8
その他	22.5%	109
計	110.5%	535

n=484（複数回答）

※店舗名不明のものは、「その他」に含めている。

イ. 町外・店舗名（上位 10 件）

- 「マルナカ加茂店（福山市）」と回答した人が 14.4%で最も多く、以下「トーエイ（庄原市）」（11.8%）、「フレスタ東城店（庄原市）」（10.2%）となっている。
- 上位 10 件のうち「A コープ上下店（府中市）」以外は、福山市と庄原市の店舗が占めている。

最もよく行く店舗名（町外）	%	件数
マルナカ加茂店（福山市）	14.4%	123
トーエイ（庄原市）	11.8%	101
フレスタ東城店（庄原市）	10.2%	87
ハート加茂店（福山市）	5.9%	50
A コープ上下店（府中市）	4.1%	35
フジグラン神辺（福山市）	3.6%	31
ジュンテンドー東城店（庄原市）	2.9%	25
ザグザグ東城店（庄原市）	2.3%	20
ザ・ビッグ庄原店（庄原市）	2.2%	19
ハート新徳田店（福山市）	2.1%	18
その他	72.0%	615
計	110.5%	535

n=854（複数回答）

※チェーン店で支店名不明のものは、「その他」に含めている。

ウ. 町外・所在地

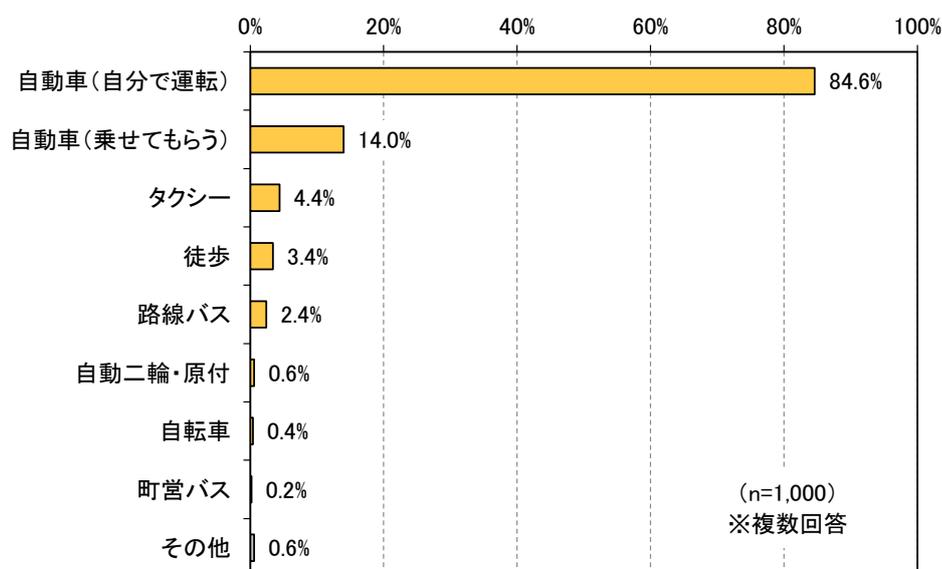
- 「福山市」と回答した人が 79.3%で最も多く、以下「庄原市」(35.8%)、「府中市」(12.1%)となっている。

最もよく行く店舗の所在地 (町外)	%	件数
福山市	79.3%	677
庄原市	35.8%	306
府中市	12.1%	103
世羅町	1.5%	13
井原市 (岡山県)	0.2%	2
(所在地不明)	2.7%	23
計	131.6%	1,124

n=854 (複数回答)

③ 買い物の際の利用交通手段

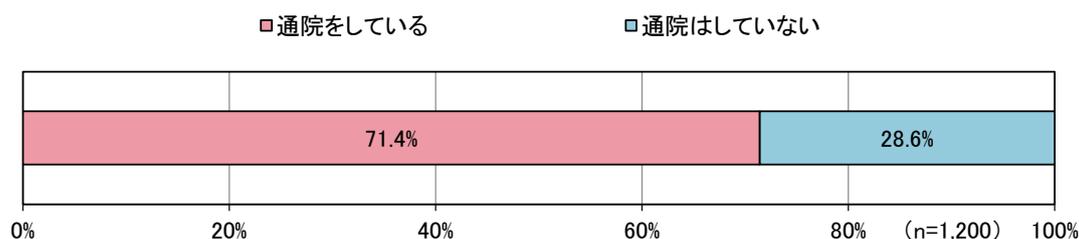
- 「自動車 (自分で運転)」と回答した人が 84.6%抜きんでて多く、タクシーや路線バスなどの公共交通を利用している人は数%となっている。



※その他内訳…シニアカー (4 件)、無回答 (1 件)

(5) 日常的に通院をしているか

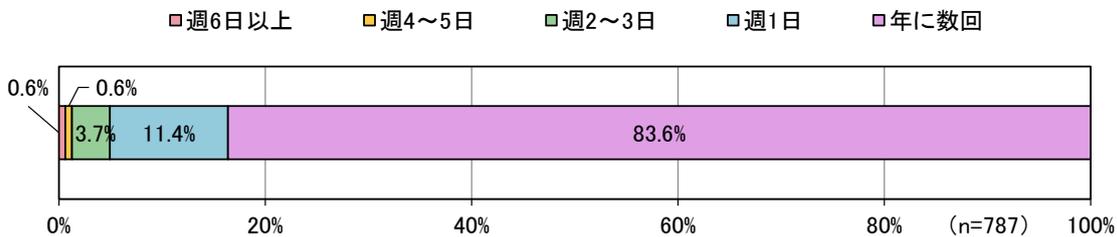
- 「通院をしている」と回答した人が 71.4%を占めている。



(6) (5) で「通院をしている」と回答した人

① 通院の頻度

- 「年に数回」と回答した人が 83.6% となっている。



② 最もよく行く医療機関

ア. 町内

- 「神石高原町立病院」と回答した人が 83.4% で最も多く、以下「神石高原町立へき地診療所」(11.7%)、「吉實クリニック」(2.3%) となっている。

最もよく行く医療機関名 (町内)	%	件数
神石高原町立病院	83.4%	407
神石高原町立神石へき地診療所	11.7%	57
吉實クリニック	2.3%	11
安名歯科医院	0.4%	2
宮本歯科医院	0.2%	1
秋山歯科	0.2%	1
小畠歯科医院	0.2%	1
(医療機関名不明)	2.5%	12
計	100.8%	492

n=488 (複数回答)

イ. 町外・医療機関名（上位 10 件）

- 「福山市民病院（福山市）」と回答した人が 8.6%で最も多く、以下「中国中央病院（福山市）」（8.2%）、「府中北市民病院（府中市）」（7.2%）となっている。
- 上位 10 件は福山市、府中市、庄原市の医療機関で占めている。
- 最も多い「福山市民病院（福山市）」でも 10.0%より少なく、町外の様々な医療機関へ通院していることがうかがえる。

最もよく行く医療機関名（町外）	%	件数
福山市民病院（福山市）	8.6%	49
中国中央病院（福山市）	8.2%	47
府中北市民病院（府中市）	7.2%	41
小川内科胃腸科（福山市）	4.4%	25
柴田内科（福山市）	3.3%	19
東城病院（庄原市）	3.3%	19
庄原赤十字病院（庄原市）	2.6%	15
脳神経センター大田記念病院（福山市）	2.6%	15
小島病院（福山市）	2.4%	14
向田内科医院（福山市）	1.9%	11
福山整形外科クリニック（福山市）	1.7%	10
黒木整形外科リハビリテーションクリニック（府中市）	1.6%	9
三好眼科（福山市）	1.6%	9
日本鋼管福山病院（福山市）	1.6%	9
福山医療センター（福山市）	1.6%	9
福山第一病院（福山市）	1.6%	9
その他	58.1%	333
計	112.2%	643

n=573（複数回答）

ウ. 町外・所在地（上位 5 件）

- 「福山市」と回答した人が 78.9%で最も多く、以下「府中市」（14.3%）、「庄原市」（11.3%）となっており、買い物先と同じく「福山市」が最も多くなっている。

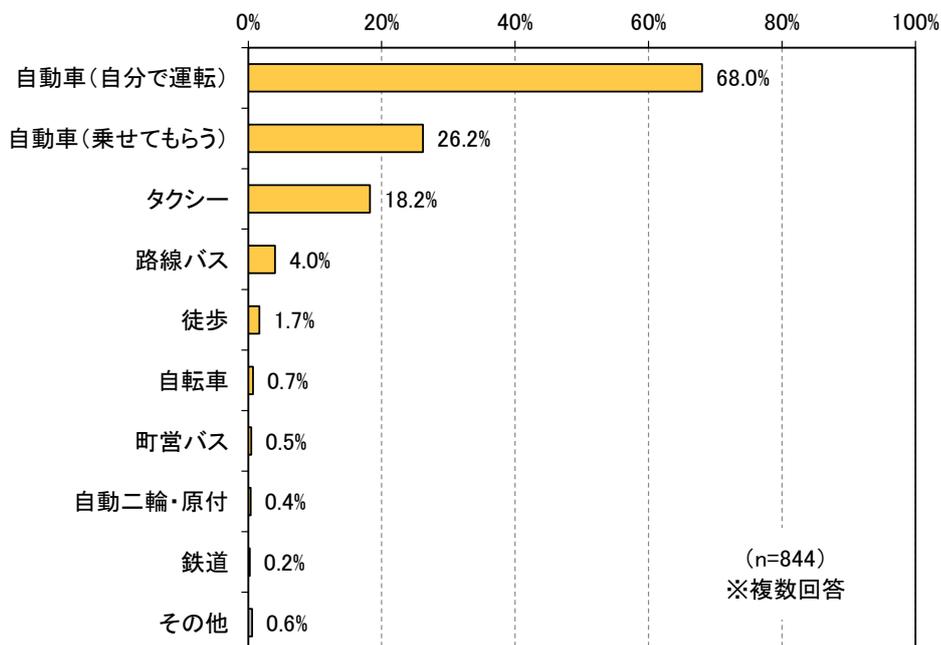
最もよく行く医療機関の所在地（町外）	%	件数
福山市	78.9%	452
府中市	14.3%	82
庄原市	11.3%	65
世羅町	1.4%	8
井原市（岡山県）	1.2%	7
その他	3.8%	22
計	112.2%	643

n=573（複数回答）

※その他内訳…広島市、倉敷市（岡山県）、所在地不明（各 4 件） 岡山市（岡山県）、笠岡市（岡山県）、新見市（岡山県） 東広島市（各 2 件） 尾道市、高梁市（岡山県）（各 1 件）

③ 通院の際の利用交通手段

- 「自動車（自分で運転）」と回答した人が68.0%で最も多く、以下「自動車（乗せてもらう）」(26.2%)、「タクシー」(18.2%)となっている。

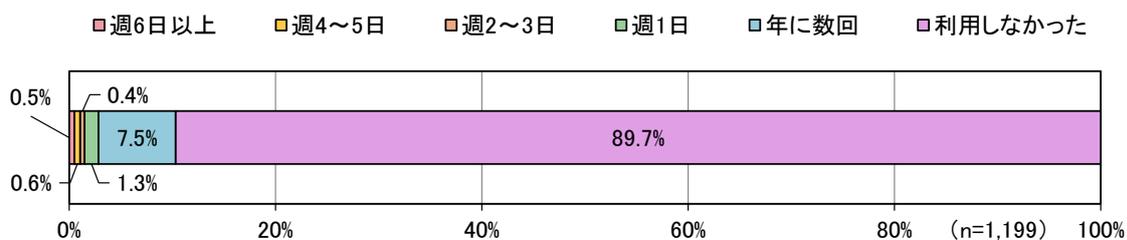


※その他内訳…病院の送迎バス (2件) 高速バス、シニアカー、無回答 (各1件)

3. 町内の路線バス（中国バス・町営バス）の利用状況と満足度

(1) 過去1年の間に、町内の路線バスをどの程度利用したか

- 「利用しなかった」と回答した人が89.7%を占めている。



(2) (1) で「利用しなかった」以外を回答した人

① 主に利用する路線バスの区間（2件以上回答があった区間）

- 「油木から福山駅前（中国バス）まで」と回答した人の割合が19.6%で最も多く、以下「道の駅さんわステーション（中国バス）から福山駅前（中国バス）まで」（8.8%）、「*井関（中国バス）から福山駅前（中国バス）」（4.9%）となっている。
- 中国バス・町営バス共通のバス停である「油木」で乗降する人が多く、交通の要所となっていることが分かる。（その他の中でも、乗車・降車のいずれかで「油木」と回答した人は20件）
- 乗車バス停は様々であるが、「福山駅前（中国バス）」で降車する人が多い。

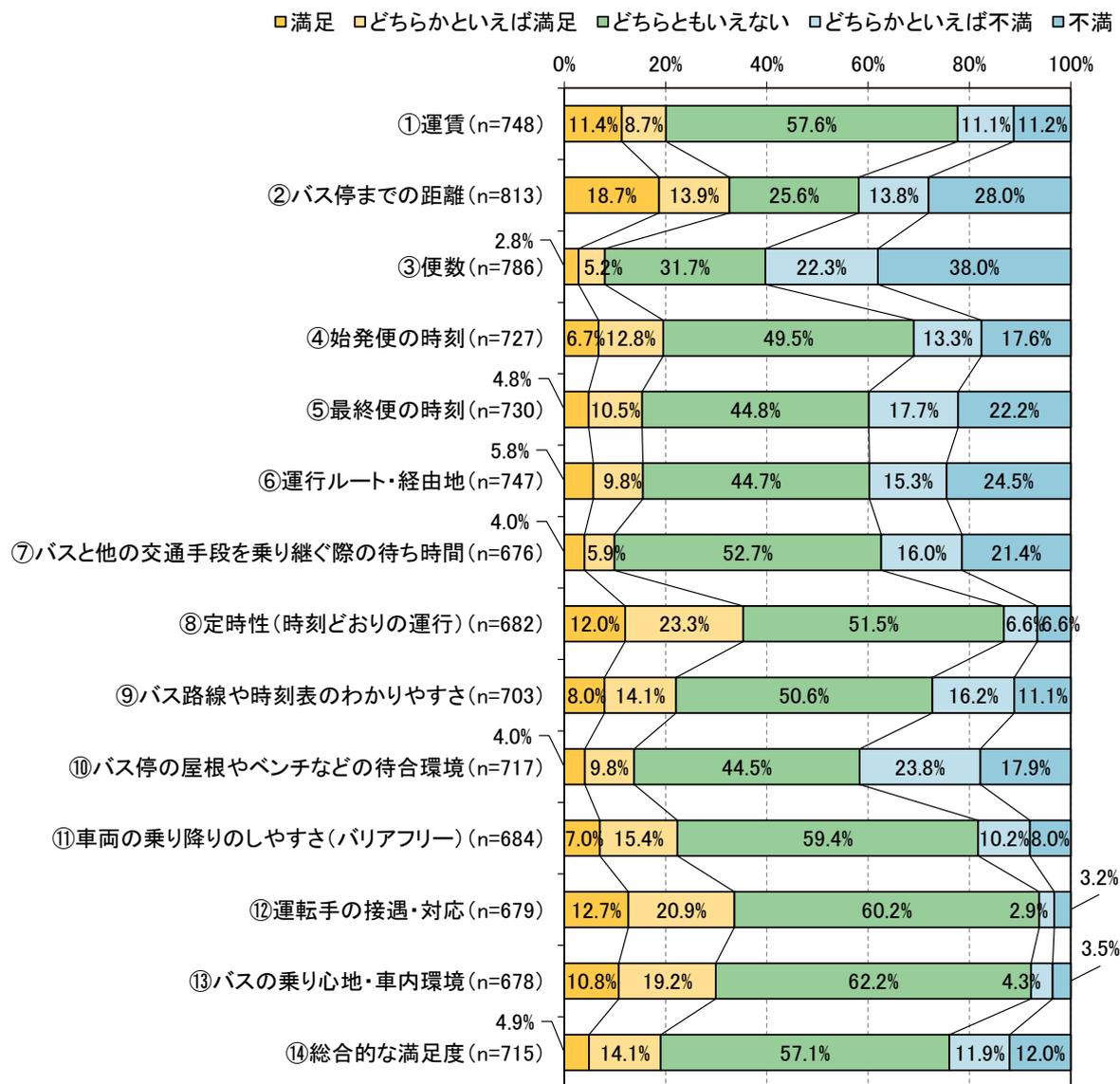
乗車	降車	%	件数
油木	福山駅前（中国バス）	19.6%	20
道の駅さんわステーション（中国バス）	福山駅前（中国バス）	8.8%	9
*井関（中国バス）	福山駅前（中国バス）	4.9%	5
高蓋（中国バス）	油木	3.9%	4
安田（中国バス）	油木	2.9%	3
小吹（中国バス）	福山駅前（中国バス）	2.9%	3
上井関（中国バス）	福山駅前（中国バス）	2.9%	3
油木	東城（中国バス）	2.9%	3
*神石（町営バス）	油木	2.9%	3
*豊松（町営バス）	油木	2.9%	3
高蓋（中国バス）	*小畠（中国バス）	2.0%	2
三和リゾート入口（中国バス）	福山駅前（中国バス）	2.0%	2
神石高原町立病院（中国バス）	油木	2.0%	2
福山駅前（中国バス）	道の駅さんわステーション（中国バス）	2.0%	2
油木	呉ヶ峠（町営バス）	2.0%	2
油木	十九軒屋（中国バス）	2.0%	2
油木	神石高原町立病院（中国バス）	2.0%	2
油木	*三和（中国バス）	2.0%	2
油木	*福山市（中国バス）	2.0%	2
来見学園前（中国バス）	道上（中国バス）	2.0%	2
（記入無し）	福山駅前（中国バス）	2.0%	2
	その他	55.9%	57
	計	132.4%	135

n=102（複数回答）

※「*」が付いている名称は、バス停名ではなく地名や地区名での回答

(3) 町内路線バスの満足度

- 満足度が高い（「満足」「どちらかといえば満足」を足した数値が大きい）項目は、「⑧定時性（時刻どおりの運行）」（35.3%）、「⑫運転手の接遇・対応」（33.6%）、「②バス停までの距離」（32.6%）となっている。
- 満足度が低い（「不満」「どちらかといえば不満」を足した数値が大きい）項目は、「③便数」（60.3%）、「②バス停までの距離」（41.8%）、「⑩バス停の屋根やベンチなどの待合環境」（41.7%）となっている。



(4) 町営バスを利用しやすくするために必要なサービスの改善についての自由意見（上位 12 件）

- 「バス停が遠い・自宅や目的地の近くまで運行してほしい」と回答した人が 21.9%で最も多く、以下「便数を増やす」（19.3%）、「町外も運行する」（12.4%）となっている。

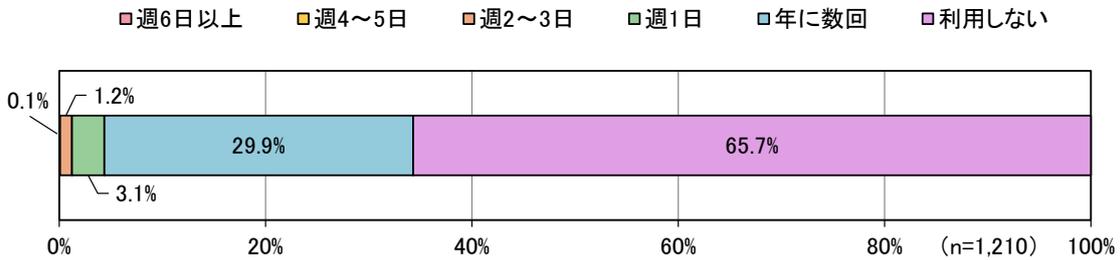
	%	件数
バス停が遠い・自宅や目的地の近くまで運行してほしい	21.9%	51
便数を増やす	19.3%	45
町外も運行する	12.4%	29
車両を小型化する	11.2%	26
運賃を安くする・無料にする	9.9%	23
バスの情報（運賃・時刻・経路等）を周知する	6.9%	16
運行範囲・経路を広げてほしい	5.6%	13
休日も運行する	5.6%	13
通院バスを運行する・町立病院を経由する	5.6%	13
タクシーに転換する・バスではなくタクシーを利用している	3.9%	9
時刻の設定を便利にする	3.4%	8
買い物バスを運行する	3.0%	7
高校生が便利になるようにする・高校生のために路線を維持する	3.0%	7
予約制にする	3.0%	7
フリー乗降にする	2.6%	6
低床バス・バリアフリーなど乗りやすい車両にする	2.1%	5
その他	18.9%	44
計	136.1%	317

n=233（複数回答）

4. 町内を運行するタクシーの利用について

(1) 町内でタクシーを普段どれくらい利用しているか

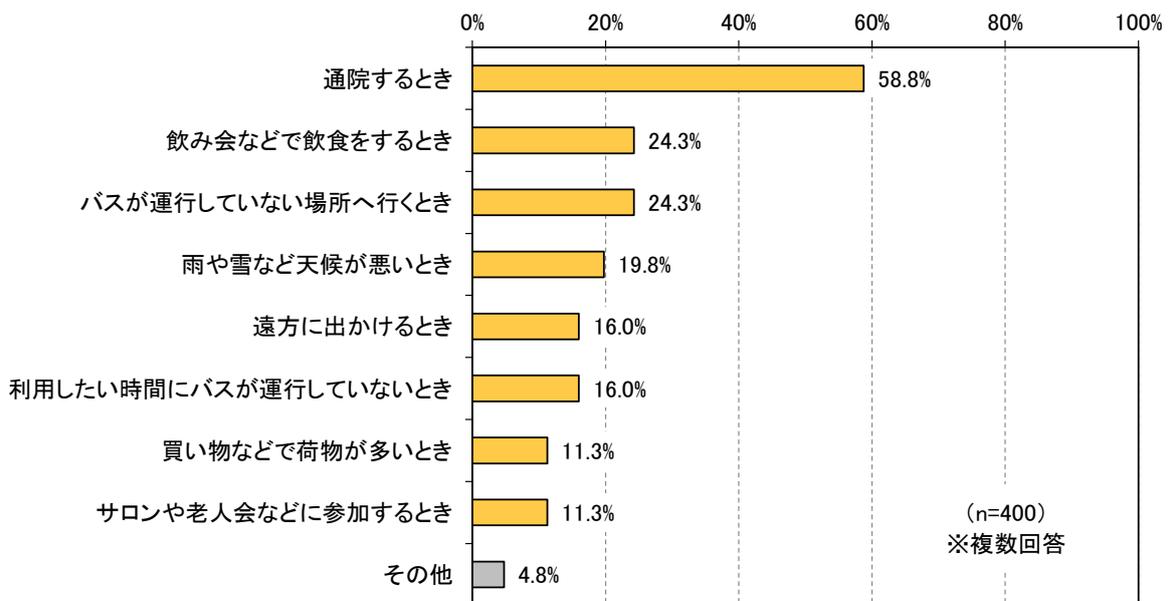
- 「利用しない」と回答した人が 65.7%で最も多く、次いで「年に数回」(29.9%)となっている。



(2) (1) で「利用しない」以外を回答した人

① タクシーを利用する場面

- 「通院するとき」と回答した人が 58.8%で最も多く、以下「飲み会などで飲食するとき」「バスが運行していない場所へ行くとき」(各 24.3%)、「雨や雪など天候が悪いとき」(19.8%)となっている。

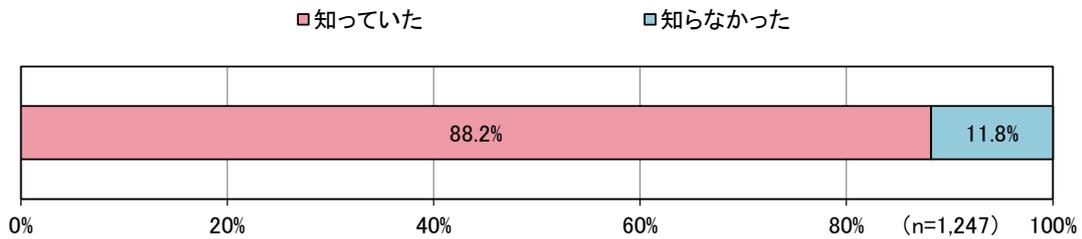


※その他内訳…家族に送迎してもらえないとき、金融機関へ行くとき (各 4 件) 会議・集会へ行くとき (3 件) 美容院へ行くとき (2 件) イベントへ行くとき、運転を禁止されたとき、買い物へ行くとき、家族が入所している施設へ行くとき、高速バスに乗るとき、自宅からバス停までの往復、習い事へ行くとき、役場へ行くとき、友人宅へ行くとき、予定外の外出が必要なき (各 1 件) ※複数回答

5. ふれあいタクシー事業について

(1) 「ふれあいタクシー事業」のことを知っていたか

- 「知っていた」と回答した人が 88.2%となっている。



(2) 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがあるか

- 『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある」と回答した人が 31.5%となっている。

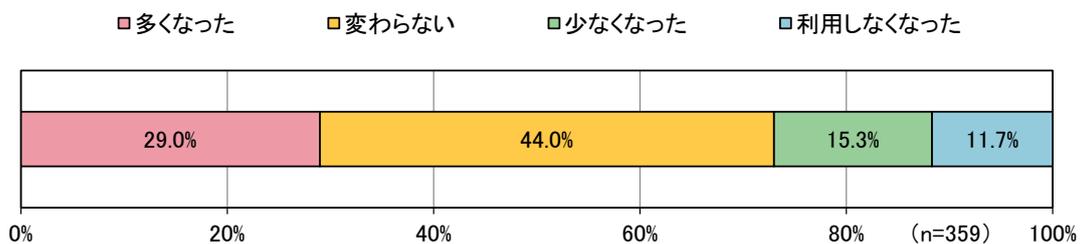
■「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある ■「ふれあいタクシー事業」を利用したことはない



(3) (2) で『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある」と回答した人

① 「ふれあいタクシー事業」を利用してタクシーに乗車した回数は、令和元年（4年前）と比較して変化したか

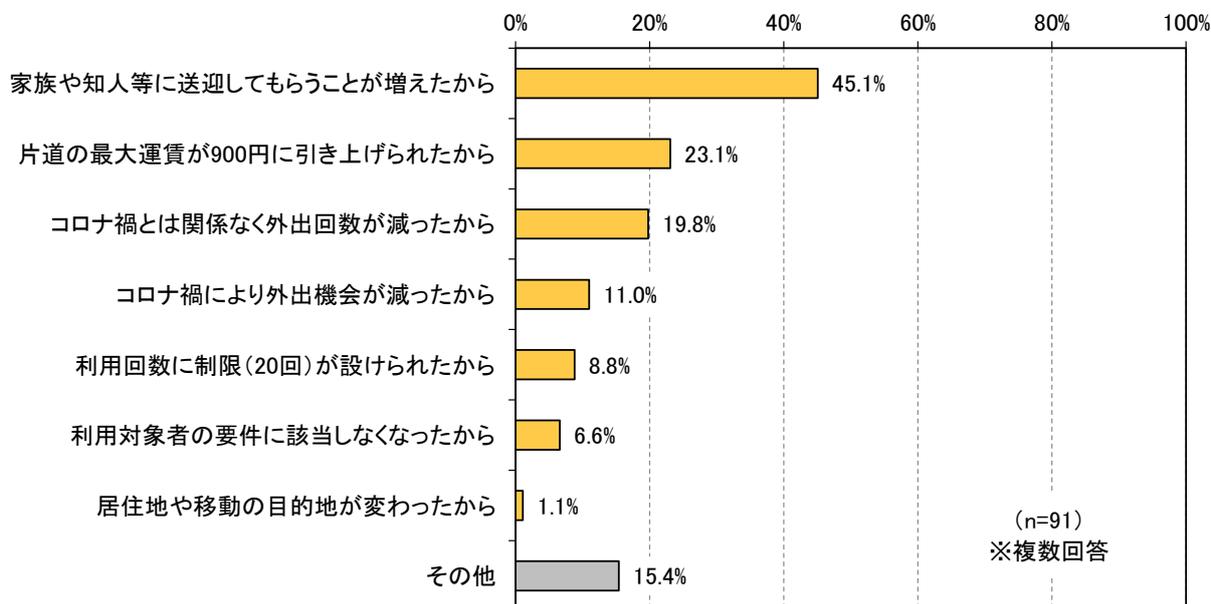
- 「変わらない」と回答した人が 44.0%で最も多く、以下「多くなった」（29.0%）、「少なくなった」（15.3%）となっている。



② ①で「少なくなった」「利用しなくなった」と回答した人

ア. 「ふれあいタクシー事業」を利用してタクシーに乗車する回数が減った理由

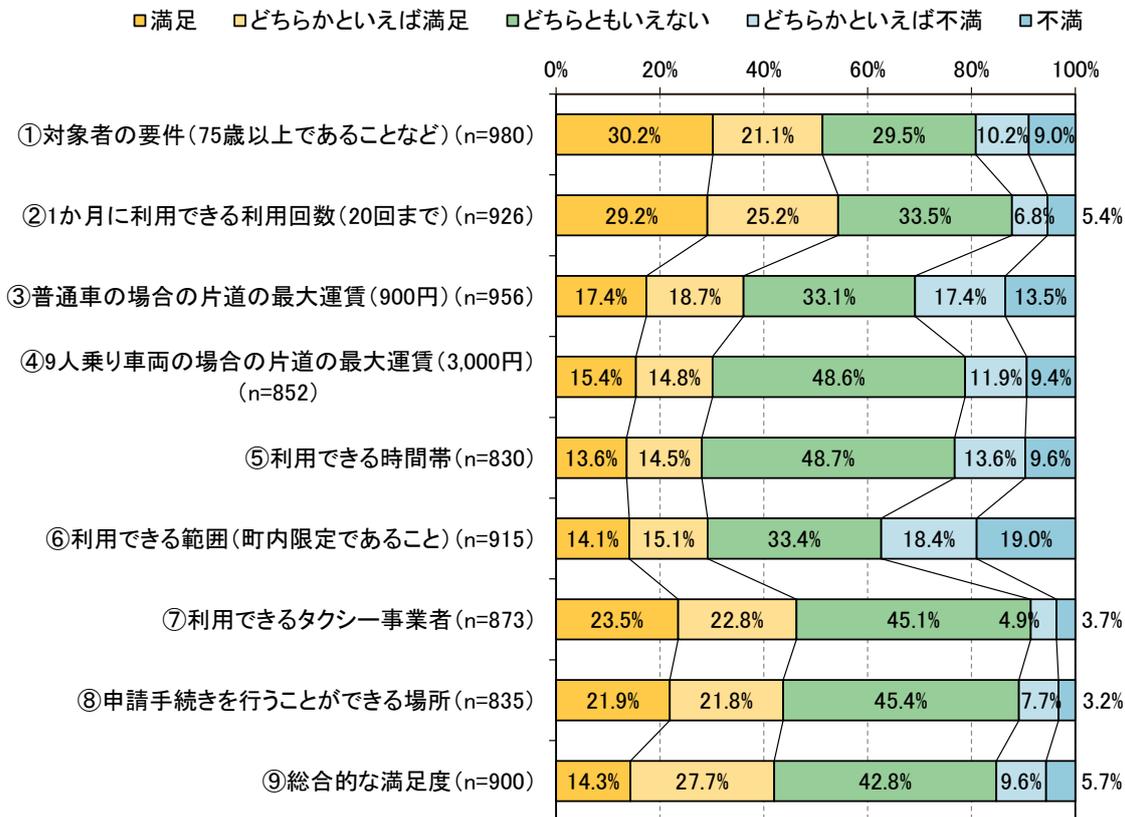
- 「家族や知人等に送迎してもらったことが増えたから」と回答した人が45.1%で最も多く、以下「片道の最大運賃が900円に引き上げられたから」(23.1%)、「コロナ禍とは関係なく外出回数が減ったから」(19.8%)となっている。



※その他内訳…自分で運転できるため(4件) 入退院の時だけ利用したため(2件) 介護者がいなくなったため、片道分で1回になるため、上下町への補助がなくなったため、タクシー事業者に不満があるため、タクシーの待ち時間が負担になったため、通勤に利用していたが退職したため、耳が聞こえず電話を掛けることができないため、無回答(各1件)

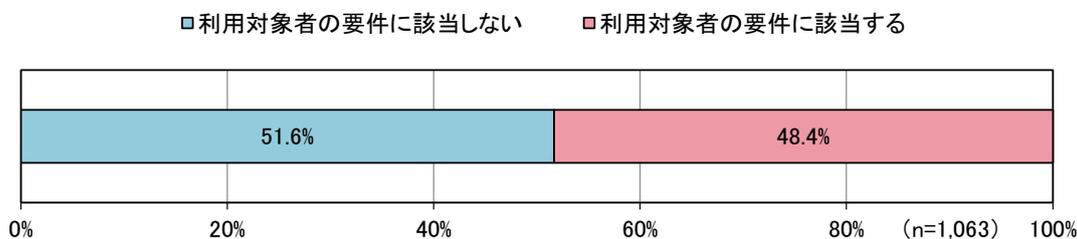
(4) 「ふれあいタクシー事業」の満足度

- 満足度が高い（「満足」「どちらかといえば満足」を足した数値が大きい）項目は、「②1か月に利用できる利用回数（20回まで）」（54.4%）、「①対象者の要件（75歳以上であることなど）」（51.3%）、「⑦利用できるタクシー事業者」（46.3%）となっている。
- 満足度が低い（「不満」「どちらかといえば不満」を足した数値が大きい）項目は、「⑥利用できる範囲（町内限定であること）」（37.4%）、「③普通車の場合の片道の最大運賃（900円）」（30.9%）、「⑤利用できる時間帯」（23.2%）となっている。



(5) 「ふれあいタクシー事業」の利用対象者の要件に該当するか

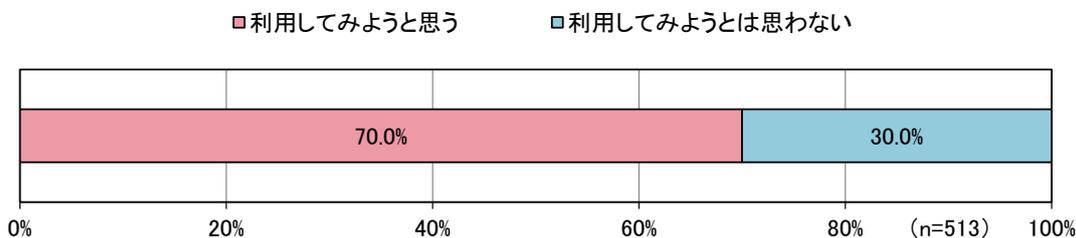
- 「利用対象者の要件に該当しない」と回答した人が51.6%となっている。



(6) (5) で「利用対象者の要件に該当しない」と回答した人

① 資格要件が緩和されて「ふれあいタクシー事業」を利用できるようになった場合、ふれあいタクシーを利用してみようと思うか

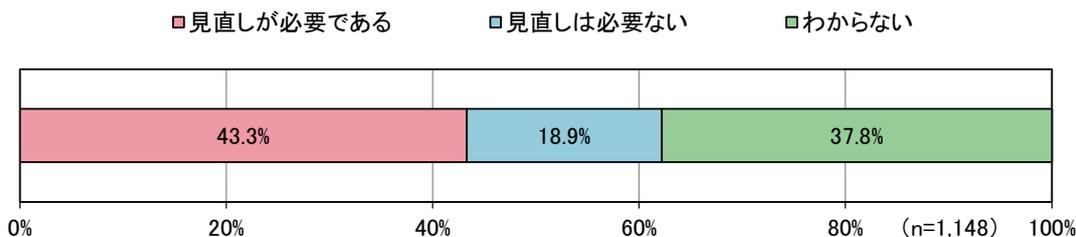
- 「利用してみようと思う」と回答した人が 70.0% となっている。



6. ふれあいタクシー事業の見直しについて

(1) ふれあいタクシー事業の見直しが必要だと思うか

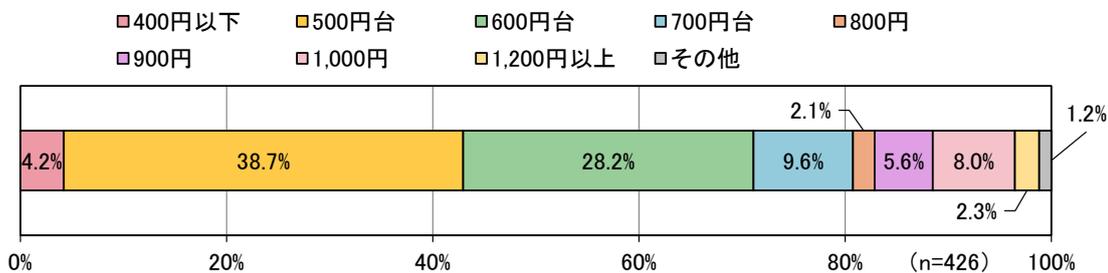
- 「見直しが必要である」と回答した人が 43.3% となっている。



(2) (1) で「見直しが必要である」と回答した人

① ふれあいタクシーの適切だと思う料金 現行…片道の最大運賃 900 円（普通車の場合）

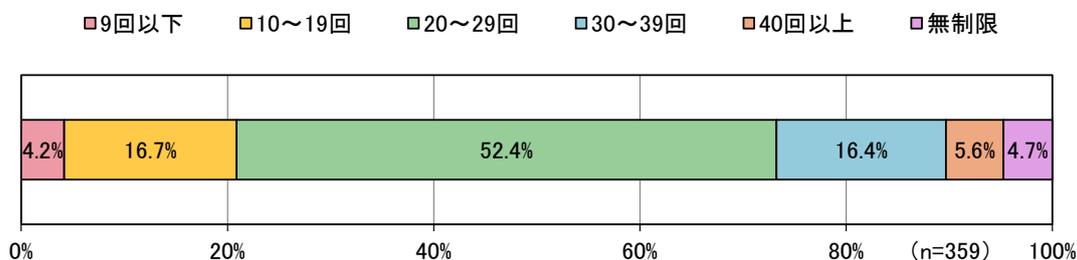
- 「500 円台」と回答した人が 38.7% で最も多く、以下「600 円台」(28.2%)、「700 円台」(9.6%) となっている。
- 個々の回答で最も多かったのは「500 円」(38.5%) で、次いで「600 円」(27.9%) となっている。



※その他内訳…無料 (2 件) 「通常料金の〇%」といった金額設定、距離や回数で変更、少し高くしてもよい (各 1 件)

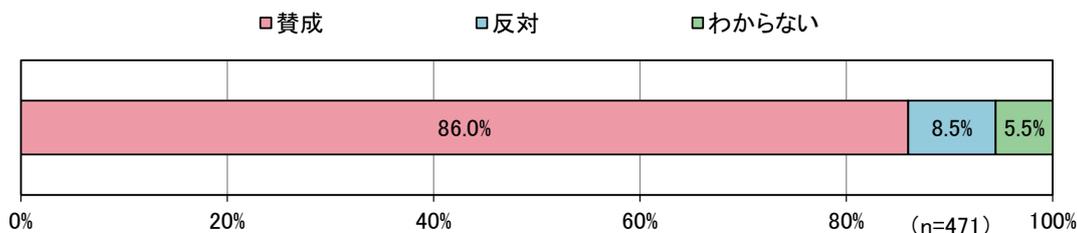
② ふれあいタクシーの適切だと思う利用回数 現行…20回

- 「20～29回」が52.4%で最も多く、以下「10～19回」(16.7%)、「30～39回」(16.4%)となっている。
- 個々の回答で最も多かったのは現行と同じ「20回」(42.3%)で、次いで「30回」(15.3%)となっている。



③ 利用目的（通院、買い物、サロンや老人会への参加など）に応じて、ふれあいタクシーの料金を引き下げることについてどう思うか

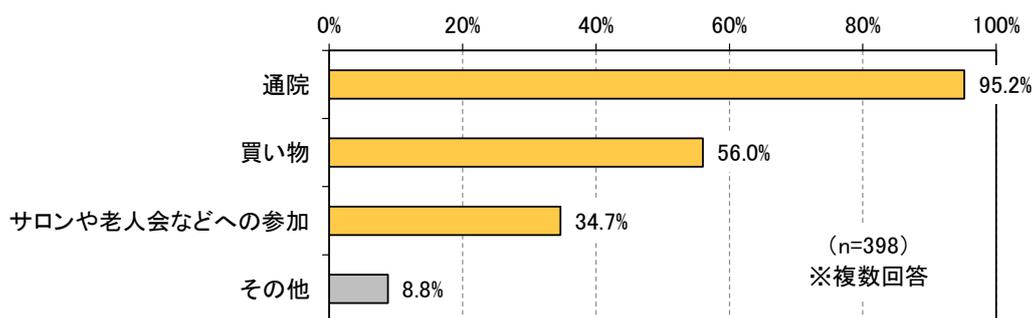
- 「賛成」と回答した人が86.0%となっている。



④ ②で「賛成」と回答した人

ア. どのような目的の場合に、料金の引き下げを行うべきだと思うか

- 「通院」と回答した人が95.2%で最も多く、以下「買い物」(56.0%)、「サロンや老人会への参加」(34.7%)となっている。



※その他内訳…目的を問わない (7件) 町外への外出、役場・金融機関 (各3件) 飲酒を伴う集まり、美容院 (各2件) お見舞い・看病、会議・集会、距離によって料金を変える、近距離、勤務先への出勤・退勤、グラウンドゴルフ、町内への外出 (各1件) 無回答 (11件)

(3) ふれあいタクシーを利用しやすくするために必要なサービスの改善についての自由意見（上位10件）

- 「運賃を安くする・割引制度を設ける」と回答した人が24.0%で最も多く、以下「町外へ行けるようにする」（14.5%）、「町外へ行くときの料金を安くする」（9.5%）となっている。
- 上位10件の中には、「今のままでよい」（5.6%）といった現状維持を望む意見が見られた。また、「目的を限定した運行にする」（3.4%）、「最大1,000円にする（釣り銭のやり取りが面倒、キリがよい）」（2.2%）といった現行よりサービス水準を下げる意見も見られた。

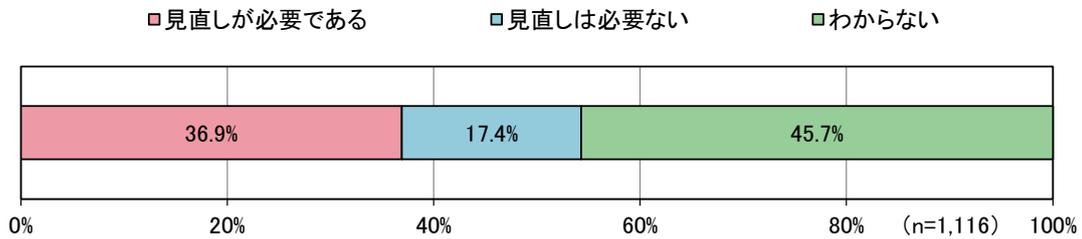
	%	件数
運賃を安くする・割引制度を設ける	24.0%	43
町外へ行けるようにする	14.5%	26
町外へ行くときの料金を安くする	9.5%	17
乗合で利用できるようにする	8.9%	16
今のままでよい	5.6%	10
立ち寄りを可能にする	5.6%	10
近距離では割高なため料金を距離制にする	5.0%	9
利用対象の要件を緩和する	5.0%	9
タクシー事業者の対応・接遇を改善する	3.9%	7
目的によって料金を変える	3.9%	7
目的を限定した運行にする	3.4%	6
ライドシェアを導入する	3.4%	6
利用可能時間を拡大する（早朝・夜間）	3.4%	6
最大1,000円にする（釣り銭のやり取りが面倒、キリがよい）	2.2%	4
情報（利用方法・料金・乗車マナー等）を周知する	2.2%	4
必要な時にすぐ乗れるようにする	2.2%	4
町立病院の診療科目を充実させて町内移動を増やす	1.7%	3
目的を問わず利用できるようにする	1.7%	3
その他	19.0%	34
計	125.1%	317

n=179（複数回答）

7. 町外医療機関通院者支援事業について

(1) 町外医療機関通院者支援事業の見直しが必要だと思うか

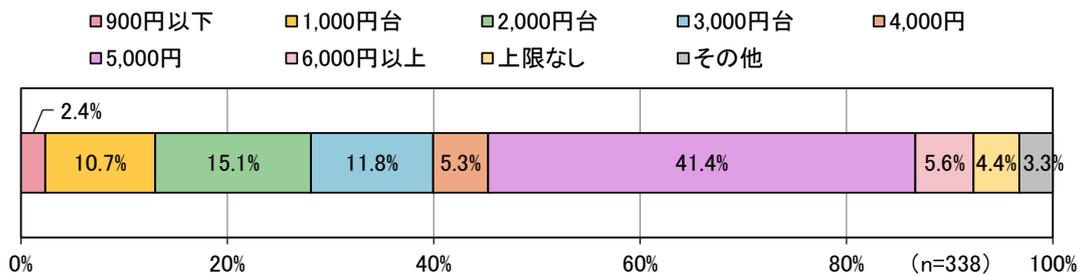
- 「見直しが必要である」と回答した人が 36.9% となっている。



(2) (1) で「見直しが必要である」と回答した人

① 町外医療機関通院者支援事業の片道 1 回の補助上限額（現行 3,000 円）について、適切だと思う金額

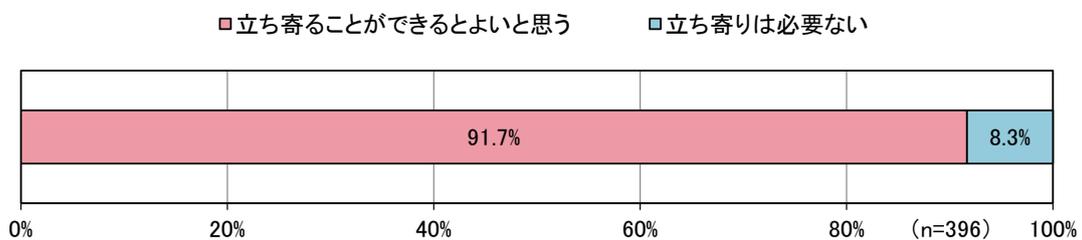
- 「5,000 円」が 41.4% で最も多く、以下「2,000 円台」(15.1%)、「3,000 円台」(11.8%) となっている。



※その他内訳…全額補助 (6件) 行き先によって上限額を変える (3件) バス料金の半額、町内と同じ料金で乗れるようにする (各1件)

② 町外の医療機関での診察が終わった後、自宅へ帰るまでの間に立ち寄ることができるかと思うか

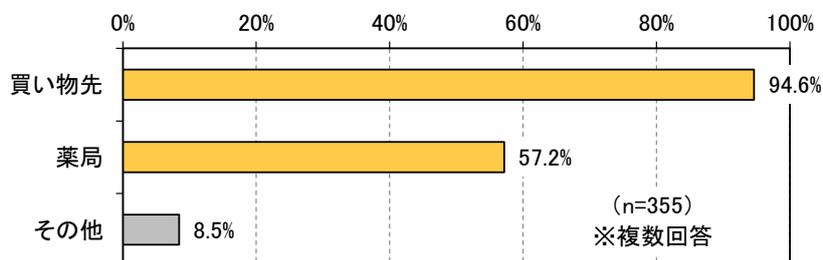
- 「立ち寄ることができるかと思う」と回答した人が 91.7% となっている。



③ ②で「立ち寄ることができる」とよいと思う」と回答した人

ア. 自宅へ帰るまでの間に立ち寄ることができる場合、どんな場所へ立ち寄ることができる」とよいと思うか

- 「買い物先」と回答した人が94.6%で最も多く、次いで「薬局」(57.2%)となっている。



※その他内訳…金融機関 (11件) 友人・親族のところ (4件) 公共施設 (図書館等)、役場・合同庁舎、用事があるところ (各2件) 趣味の場、食事、トイレ、美容院、弁護士事務所 (各1件) 無回答 (7件)
※複数回答

イ. 立ち寄り時間が何分程度あればよいと思うか

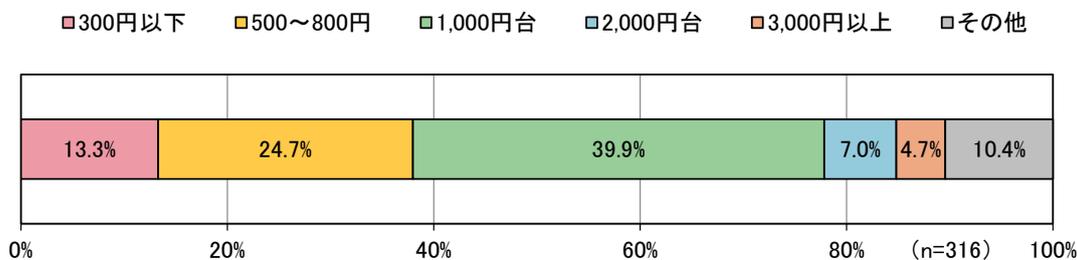
- 「30～39分」が46.8%で最も多く、以下「60～79分」(20.2%)、「20～29分」(10.4%)となっている。
- 個々の回答で最も多かったのは「30分」(46.0%)で、次いで「60分」(19.9%)となっている。



※その他内訳…その時に必要な時間 (1件)

ウ. 立ち寄る場合に利用者が負担する追加料金は何円以内が妥当だと思うか

- 「1,000円台」が39.9%で最も多く、以下「500～800円」(24.7%)、「300円以下」(13.3%)となっている。
- 個々の回答で最も多かったのは「1,000円」(37.7%)で、次いで「500円」(24.1%)となっている。



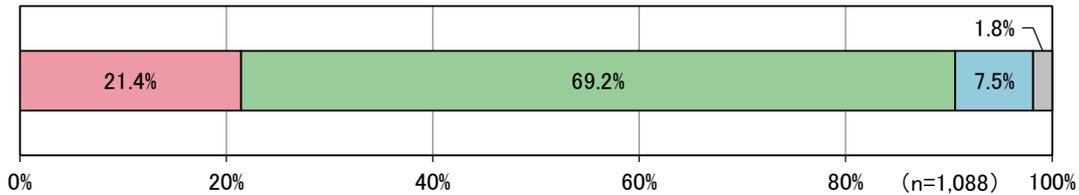
※その他内訳…無料 (25件) メーター料金分 (4件) 半額 (2件) 3割、10分300円 (各1件)

8. 今後の神石高原町の公共交通について

(1) 今後の神石高原町の公共交通について、自身の考えに最も近いもの

- 「改善を加えながら現状の公共交通サービスを維持するべき」と回答した人が 69.2%で最も多く、以下「公共交通のサービスを今より充実させるべき」(21.4%)、「公共交通に係る町の負担額を減らすべきで、結果としてサービスが低下するのは仕方ない」(7.5%)となっている。

- 公共交通のサービスを今より充実させるべき
- 改善を加えながら現状の公共交通サービスを維持するべき
- 公共交通に係る町の負担額を減らすべきで、結果としてサービスが低下するのは仕方ない
- その他

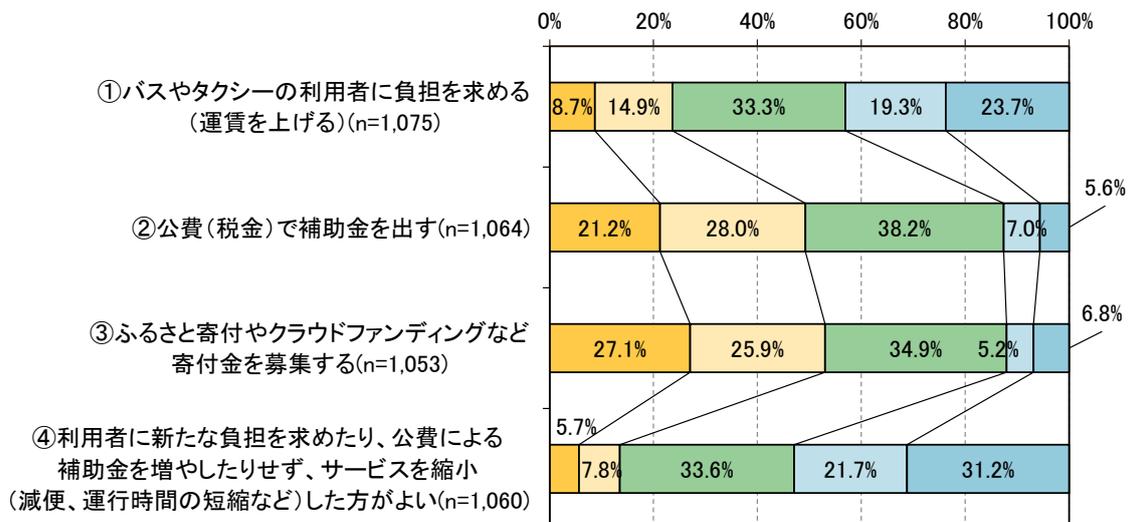


※その他内訳…必要な人が必要な時に利用できる体制にする (3件) 利用しやすくしてほしいが、負担額が増えるのは困る (2件) バスよりタクシーを充実させてほしい、負担額を減らしてサービスを充実させられるとよい、ふれあいタクシーの負担が多いように感じる、利用しない人も負担するのはおかしい、公共交通のありがたみを町民は理解し自ら利用を心がけるべき、所得に応じた負担を検討すべき、人口が少なくなるので予想がつかない (各1件) 無回答 (8件)

(2) 公共交通を維持するための方法について支持するか

- 支持する人の割合(「支持する」「どちらかといえば支持する」を足した数値)は、「③ふるさと寄付やクラウドファンディングなど寄付金を募集する」(53.0%)が最も多く、次いで「②公費(税金)で補助金を出す」(49.2%)となっている。
- 支持しない人の割合(「支持しない」「どちらかといえば支持しない」を足した数値)は、「④利用者に新たな負担を求めたり、公費による補助金を増やしたりせず、サービスを縮小(減便、運行時間の短縮など)した方がよい」(52.9%)が最も多く、次いで「①バスやタクシーの利用者に負担を求める(運賃を上げる)」(43.0%)となっている。

- 支持する
- どちらかといえば支持する
- どちらともいえない
- どちらかといえば支持しない
- 支持しない



(3) 現在及び今後の神石高原町の公共交通についての自由意見（上位 12 件）

- 「運賃を安くしてほしい・割引制度や補助がほしい」と回答した人が 12.4%で最も多く、以下「現状を維持してほしい・公共交通を無くさないでほしい」（10.3%）、「路線バスを増便する・減便しない」（5.7%）となっている。
- 「現状を維持してほしい・公共交通を無くさないでほしい」「タクシーが必要・存続してほしい」といった、現状維持や存続を望む意見が見られた。
- 上位 12 件の中には「利用者がある程度負担すべき・値上がりは仕方ない」（2.3%）といった、存続のために現行よりサービス水準を下げる意見も見られた。その他の中にも「ふれあいタクシーの資格要件や目的を制限する・回数を減らす」「値上がりしても良いのでふれあいタクシーを存続させてほしい」といった意見が見られた。

	%	件数
運賃を安くしてほしい・割引制度や補助がほしい	12.4%	48
現状を維持してほしい・公共交通を無くさないでほしい	10.3%	40
路線バスを増便する・減便しない	5.7%	22
町外へ行き来するバスを運行してほしい	5.2%	20
今はよいが将来の移手段が不安	4.9%	19
タクシーが必要・存続してほしい	4.9%	19
買い物環境を整備してほしい（移動販売・宅配・店の誘致等）	3.9%	15
ライドシェアを導入する・民間に委託する	3.9%	15
公共交通を今より充実させてほしい	3.6%	14
車両を小型化する	3.1%	12
バス停までが遠い	3.1%	12
運行ルートを便利にしてほしい	2.8%	11
アンケートに関する意見	2.6%	10
不便なため転居を考える・住みたいと思わない	2.3%	9
利用者がある程度負担すべき・値上がりは仕方ない	2.3%	9
買い物バス・通院バスを運行してほしい	2.1%	8
公共交通は利用しにくい・利用する予定はない	2.1%	8
その他	56.3%	509
計	131.5%	317

n=387（複数回答）

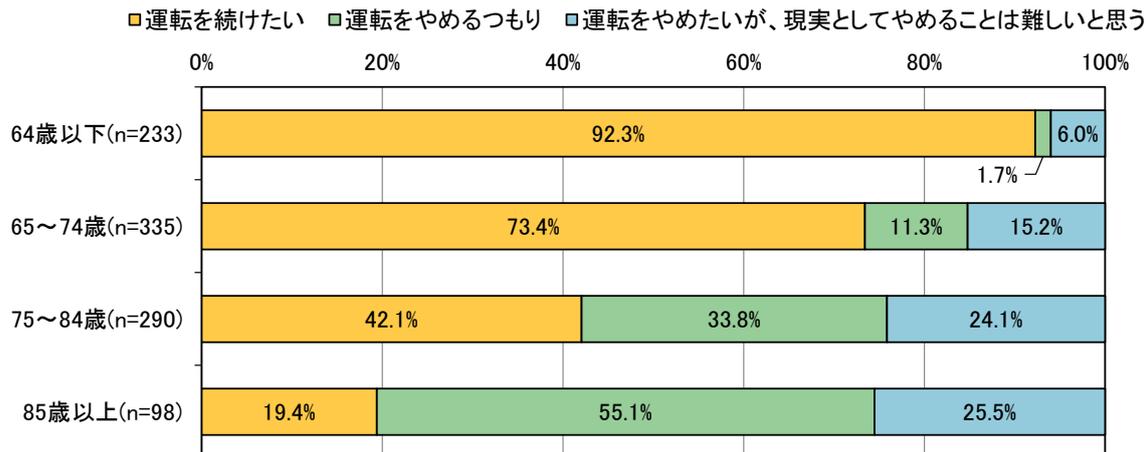
IV クロス集計結果

1. 主な設問の年代によるクロス集計結果

(1) 10年後も運転を続けたいと思うか

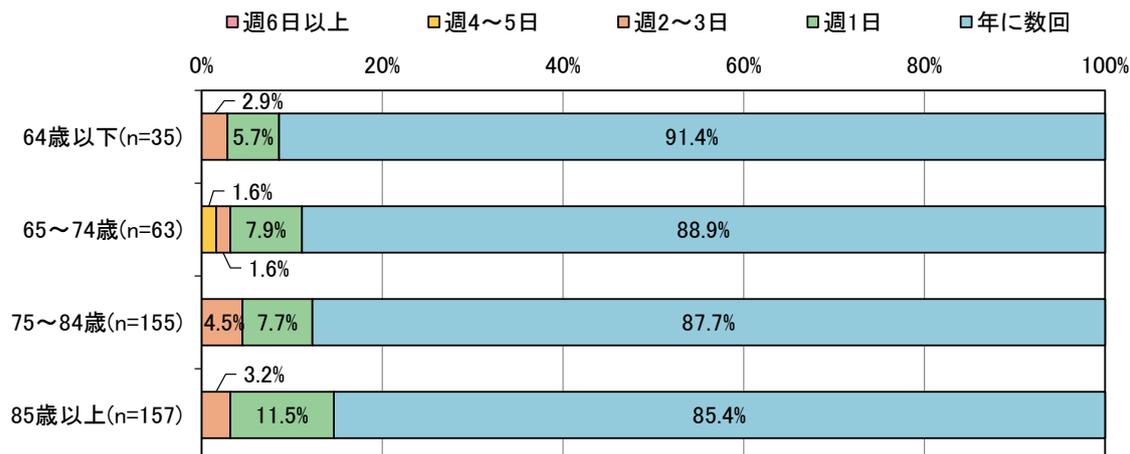
※「日常的に自動車の運転をしているか」の設問で、「運転している」「免許はあるがほとんど運転しない」と回答した人

- 年代が上がるにつれて、「運転を続けたい」と回答した人の割合が少なくなっている。一方、「運転をやめるつもり」「運転をやめたいが、現実としてやめることは難しいと思う」と回答した人の割合が高くなっている。
- 85歳以上では「運転をやめるつもり」と回答した人の割合が55.1%となっている。



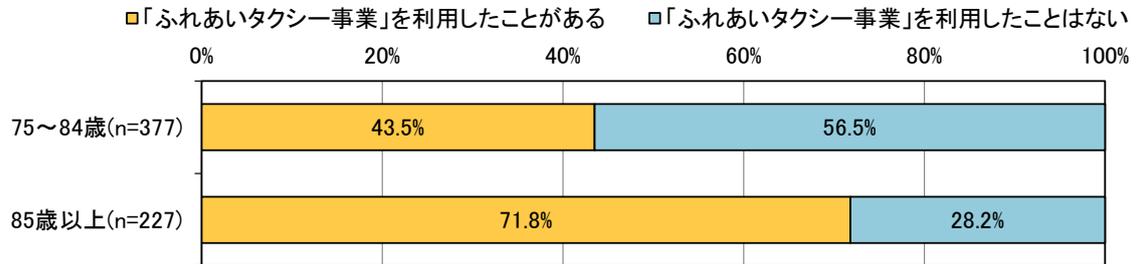
(2) 町内でタクシーを普段どのくらい利用しているか

- 年代が上がるにつれて、町内でタクシーを週1日以上利用する人の割合が増えている。



(3) 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがあるか

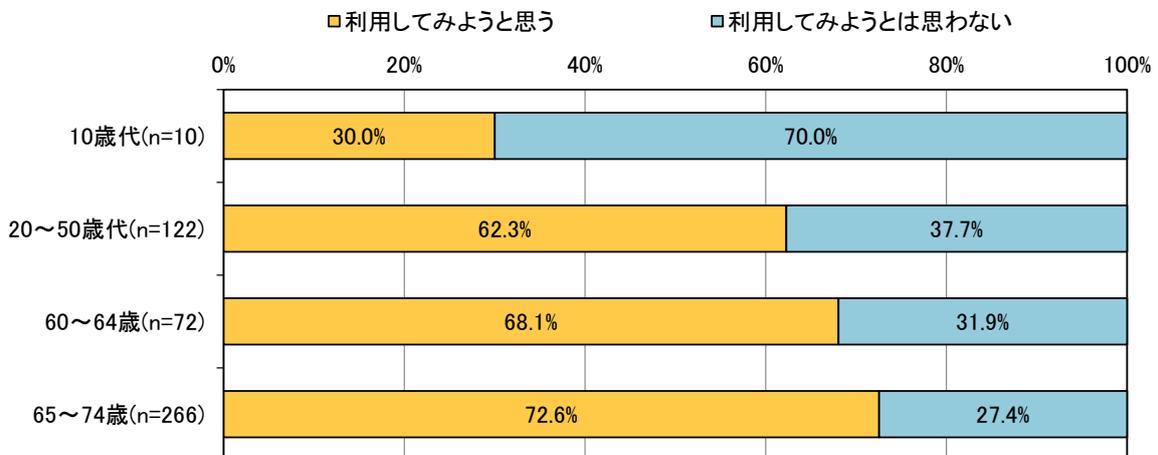
- 75～84歳では『ふれあいタクシー事業』を利用したことはない』と回答した人の割合が56.5%で、半数を超えている。
- 一方、85歳以上では『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある』と回答した人の割合が71.8%にのぼっている。



(4) 資格要件が緩和されて「ふれあいタクシー事業」を利用できるようになった場合、ふれあいタクシーを利用してみようと思うか

※ 「ふれあいタクシー事業」の利用対象者の要件に該当するか」の設問で、「利用対象者の要件に該当しない」と回答した人

- 年代が上がるにつれて、「利用してみようと思う」と回答した人の割合が高くなっている。
- 「利用してみようと思う」と回答した人の割合は、60～64歳で68.1%、65～74歳で72.6%となっている。



2. ふれあいタクシー事業の利用経験・利用対象者要件への該当／非該当・年代によるクロス集計結果

回答者を次の4つに区分し、クロス集計を行った。

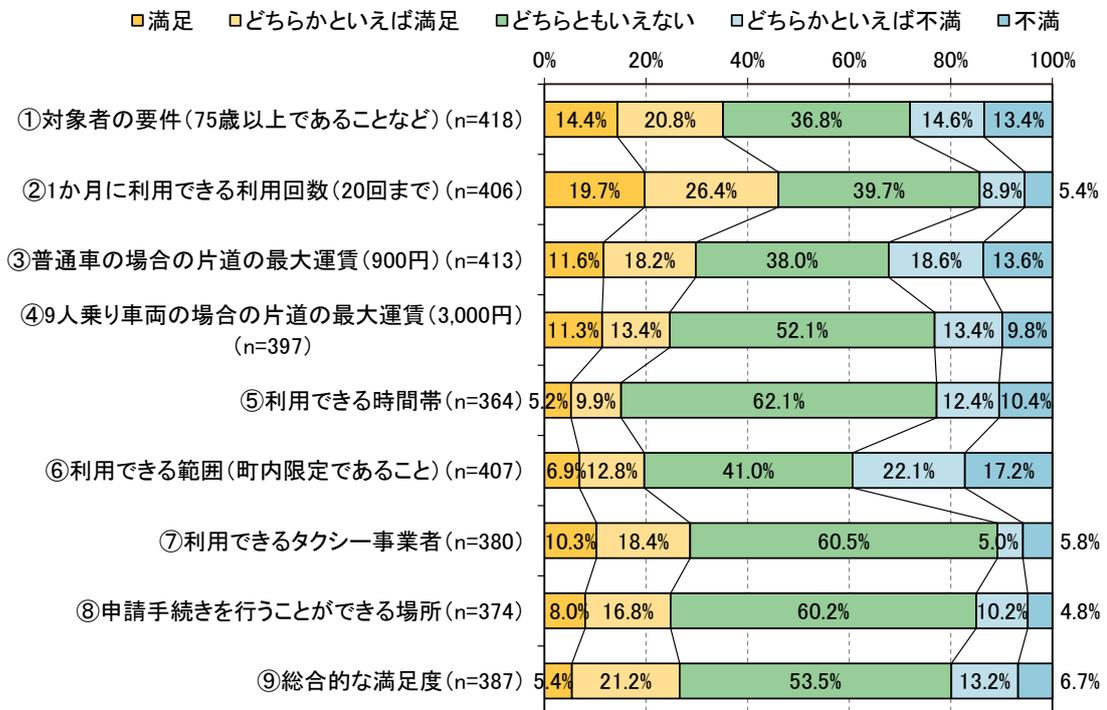
- ア. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に非該当
- イ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に該当
- ウ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある、かつ75～84歳
- エ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある、かつ85歳以上

(1) 「ふれあいタクシー事業」の満足度

- 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある人は、利用したことが無い人に比べて満足度が高くなっている。
- 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがない人では、ア（利用対象者の要件に非該当）よりも、イ（要件に該当）の方が、満足度が高くなっている。

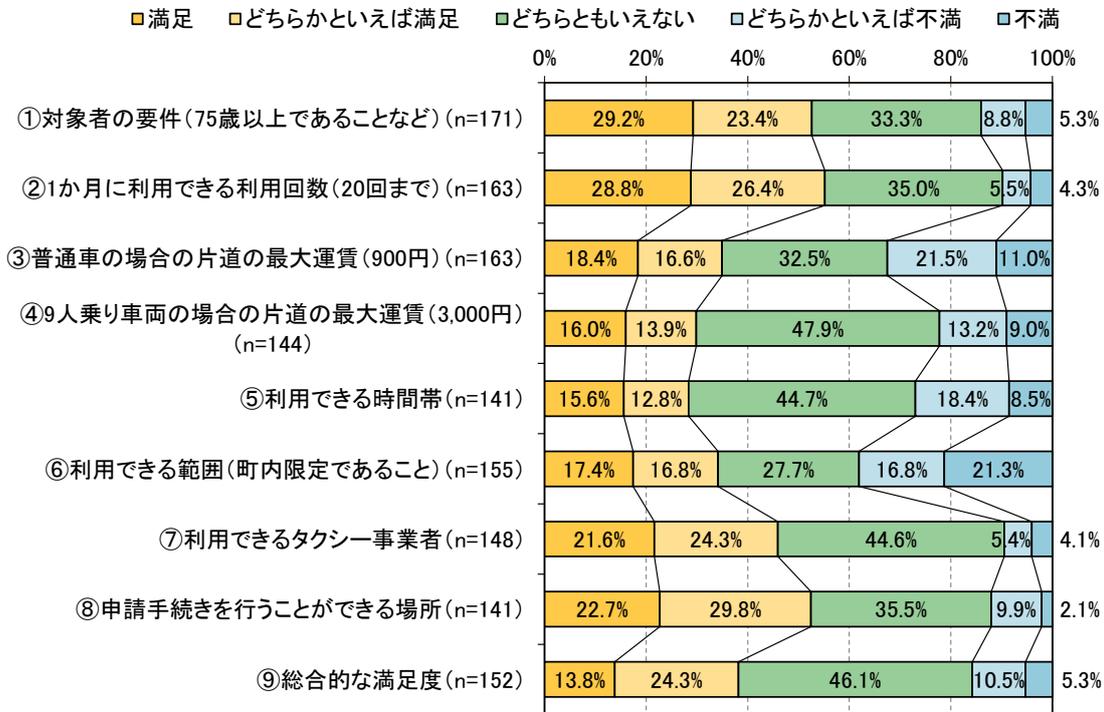
ア. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に非該当

- 『ふれあいタクシー事業』を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に非該当』の人において、不満に感じている人の割合（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）が高い項目は、割合が高い順に「⑥利用できる範囲(町内限定であること)」、「③普通車の場合の片道の最大運賃(900円)」、「①対象者の要件」である。



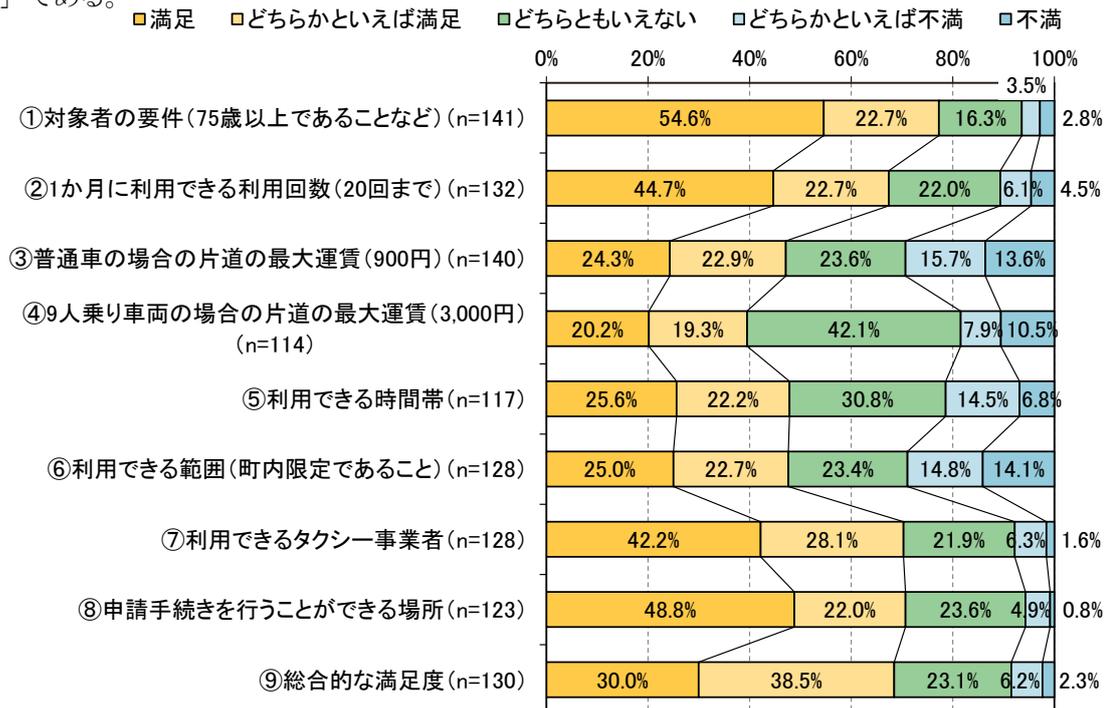
イ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に該当

- 『ふれあいタクシー事業』を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に該当」の人における不満に感じている人の割合が高い項目は、「⑥利用できる範囲」、「③普通車の場合の片道の最大運賃」、「⑤利用できる時間帯」である。



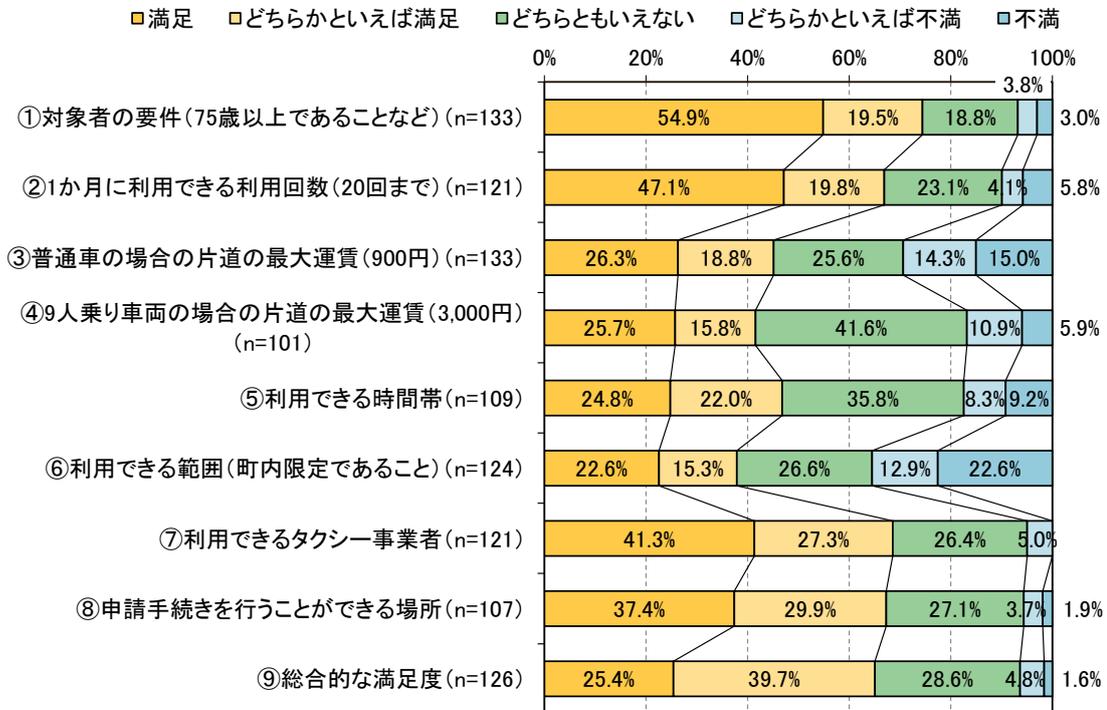
ウ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある、かつ75～84歳

- 『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある、75～84歳」の人における不満に感じている人の割合が高い項目は、『ふれあいタクシー事業』を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に該当」の人と同じく、「⑥利用できる範囲」、「③普通車の場合の片道の最大運賃」、「⑤利用できる時間帯」である。



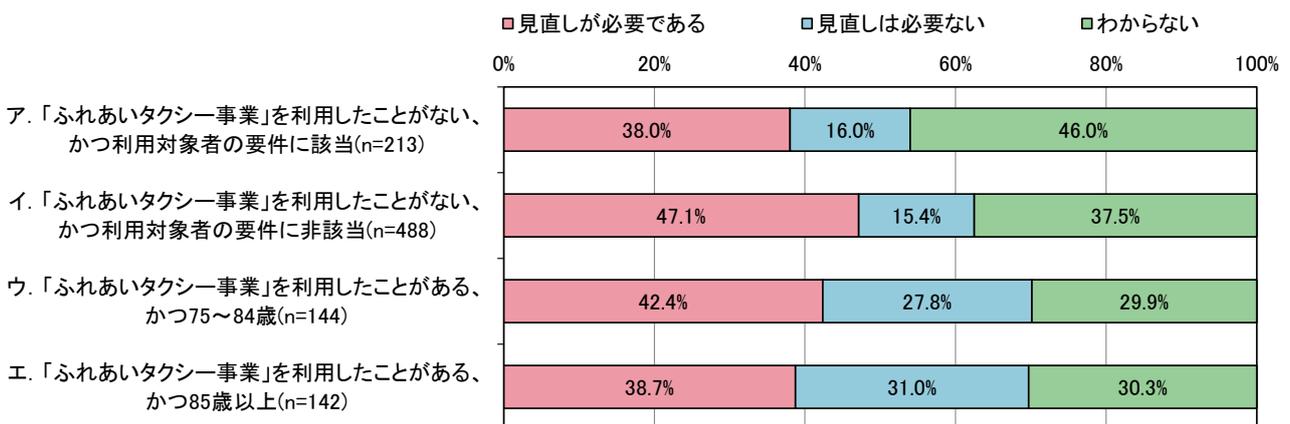
エ. 「ふれあいタクシー事業」を利用したことがある、かつ85歳以上

- 『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある、85歳以上」の人における不満に感じている人の割合が高い項目は、『ふれあいタクシー事業』を利用したことがない、かつ利用対象者の要件に該当」と『ふれあいタクシー事業』を利用したことがある、75～84歳」の人と同じく、「⑥利用できる範囲」、「③普通車の場合の片道の最大運賃」、「⑤利用できる時間帯」である。



(2) ふれあいタクシー事業の見直しが必要だと思うか

- 「見直しが必要である」と回答した人の割合は、利用対象者の要件に該当しない人の方が該当する人に比べて高く、利用経験のある人の中では85歳以上よりも84歳以下の方が高くなっている。



(3) 今後の神石高原町の公共交通について、自身の考えに最も近いもの

- 「公共交通サービスを今より充実させるべき」と回答した人の割合は、利用したことがない人で2割強、利用したことがある人で2割弱となっている。
- 利用したことがない人の中で、利用対象者の要件に該当するかどうかによる大きな違いはない。
- 利用したことがある人の中で、年代による大きな違いはない。

公共交通のサービスを今より充実させるべき
 改善を加えながら現状の公共交通サービスを維持するべき
 公共交通に係る町の負担額を減らすべきで、結果としてサービスが低下するのは仕方ない
 その他

